様式第2号

事　業　再　々　評　価　シ　ー　ト

事　業　名	広域河川改修事業		
箇　所　名	二級河川広渡川水系広渡川	市町村名	日南市

（上段は再評価、下段は再々評価）

実 施 方 法	□補助　■交付金　□県単			
事 業 期 間	採択年度	再評価年度	完了予定年度	
	H4	H23	H33	
		H28	H37	
事 業 進 捗	全体事業費（百万円）	既設投資額（百万円）	進捗率（%）	
			事業費	用地
	9,451	5,783	61.1	77.4
	9,451	6,742	71.3	84.0
再評価の概要	対象選定理由		事業効果(B/C)	対応方針原案
	再評価後５年経過		1.29	継続
	再評価後５年経過		1.21	継続

全 体 計 画

広渡川及びその支川では、無堤箇所や流下能力の低い区間があり、平成元年に床上浸水56戸、床下浸水39戸、平成2年にも床上浸水120戸、床下浸水136戸と連続して甚大な浸水被害が発生した。このため、広渡大橋から郷之原井堰までの15.9㎞区間において、平成4年度から河川改修事業に着手している。

※　広渡川水系河川整備基本方針：平成13年7月19日策定
　　広渡川水系河川整備計画　　：平成14年12月16日策定

事 業 概 要

広渡川本川の広渡大橋から郷之原井堰までの区間並びにその支川（益安川、福谷川、内之野川、恵良川、赤岩川、谷之城川、猪八重川）について、河道掘削、堤防・護岸整備を実施し、流下能力の向上を図る。

改修延長　L=15.9㎞
総事業費　9,451百万円
計画規模　2,650㎥/s：広渡橋地点（概ね50年に1回程度発生する洪水規模）
事業内容　河川敷の掘削、堤防・護岸整備、橋梁架替、堰の改修等

事 業 目 的

○対象事業の目的、必要性

広渡川流域では、これまでの出水により度々洪水が発生している。

流域内は資産が集積しており浸水による損害が大きいことから、流域住民からも早期改修の要望が強く、治水安全度を早期に向上させる必要がある。

河川改修は、概ね50年に1回程度発生する規模の洪水を安全に流下させることを整備目標とし、基準点の広渡大橋地点で計画流量2,650㎥/sとして整備を進める。

○計画での位置付け

広渡川の改修計画は、平成14年12月16日に策定した広渡川水系河川整備計画に位置付けられている。

○他事業との関連性・事業による効果

改修区間において東九州自動車道「清武南～日南」間及び関連する県道益安平山線（日南ＩＣアクセス道路）の道路整備を実施しており、「北郷～日南」間の開通に合わせて支川の益安川河川改修を進めている。

○事業を継続する必要性

本川殿所地区までの区間及び一部の支川については、一定の流下能力が確保されているものの、本川及び支川に依然として流下能力が不足する区間が残されていることから、河川改修を引き続き実施する必要がある。

事業の進捗状況

○現在の事業進捗、整備効果の発現状況

平成15年度迄に整備計画区間において、治水安全度の低い本川の広渡大橋から殿所地区までの4.8㎞区間について暫定掘削を実施し、段階的に流下能力の向上を図った。

その後、支川益安川の新羽山橋上流から花の木橋までの約0.95㎞区間、支川内之野川の本川合流点から上流約0.57㎞までの付帯施設を含めた整備を進め、流下能力の向上を図っている。現在は、支川益安川の事業進捗を引き続き図っている。

平成28年9月の台風16号により農地浸水被害が発生しているが家屋浸水被害は発生していない。

○今後の事業進捗の見込み

今後とも治水安全度の低い箇所から整備を行い、段階的な流下能力の向上を図る。

本川は整備効果の高い松永井堰下流の内之田地区を整備し、その後、暫定で整備した区間について、下流から完成断面での改修を進める。その他の支川は、益安川の残事業を進めるとともに恵良川、福谷川(一定区間の改修は行っている)についても、流域全体の治水安全度を向上させるため、整備を進める。

○事業が長期化している理由

限られた予算の中で、甚大な浸水被害が発生した県内の他河川を優先的に整備してきたため、広渡川に重点的な投資を図ることができず、事業の完了年度が遅れている。今後は、広渡川全体の優先順位を考慮し、効果的な整備を進めていく。

社会情勢等の変化

○事業を取り巻く社会情勢等の変化
　H20年度末より日南市、北郷町、南郷町が合併し日南市となった。
　広渡川の中流域から下流域にかけての河川沿いは、従来より稲作が営まれているが、近年ではスイートピーの栽培が盛んに行なわれており、全国有数の生産地となっている。
　また、日南市東部にある油津港では大型客船の来港が可能であるため、観光産業が盛んな地域となっている。更に、東九州自動車道「清武南～日南」間の整備により観光産業への期待が高まっている。

○災害等の発生状況
　平成 9年9月(台風19号)　床上浸水28戸、床下浸水51戸、浸水面積109ha
　平成17年9月(台風14号)　床上浸水1戸、床下浸水7戸、浸水面積2.8ha
　平成28年9月(台風16号)　浸水面積7.8ha

○環境保全に対する取り組み
　広渡川の河川敷の掘削は平水位以上を掘削し、水際及び河床の保全を図る。
　野生生物の生息や渡り鳥の休息地となっている河口付近のワンドの保全を行う。
　益安川では、緩傾斜護岸に現地発生材を使用した覆土を行い、現地に生育する植生の復元と野生生物の保護を行う。

事業効果の分析

○費用対効果
　費用対効果は、1.21であり、事業効果は高い。

○事業を継続することの事業効果分析
　平成28年9月20日の豪雨では、家屋浸水被害は発生していないものの、はん濫危険水位を超える状況となっており、甚大な被害が発生する可能性があった。今後も引き続き本川及び支川の流下能力が低い箇所の整備を進めることによって、浸水被害の軽減を図り、安全で安心して暮らせる社会づくりを推進する。

コスト縮減

　掘削土の他事業への流用等、今後も、他事業との連携を図りながら更なるコスト縮減に努めていくとともに、既設護岸を極力利用した河道計画にすることでコスト縮減に努めていく。

代替案の可能性

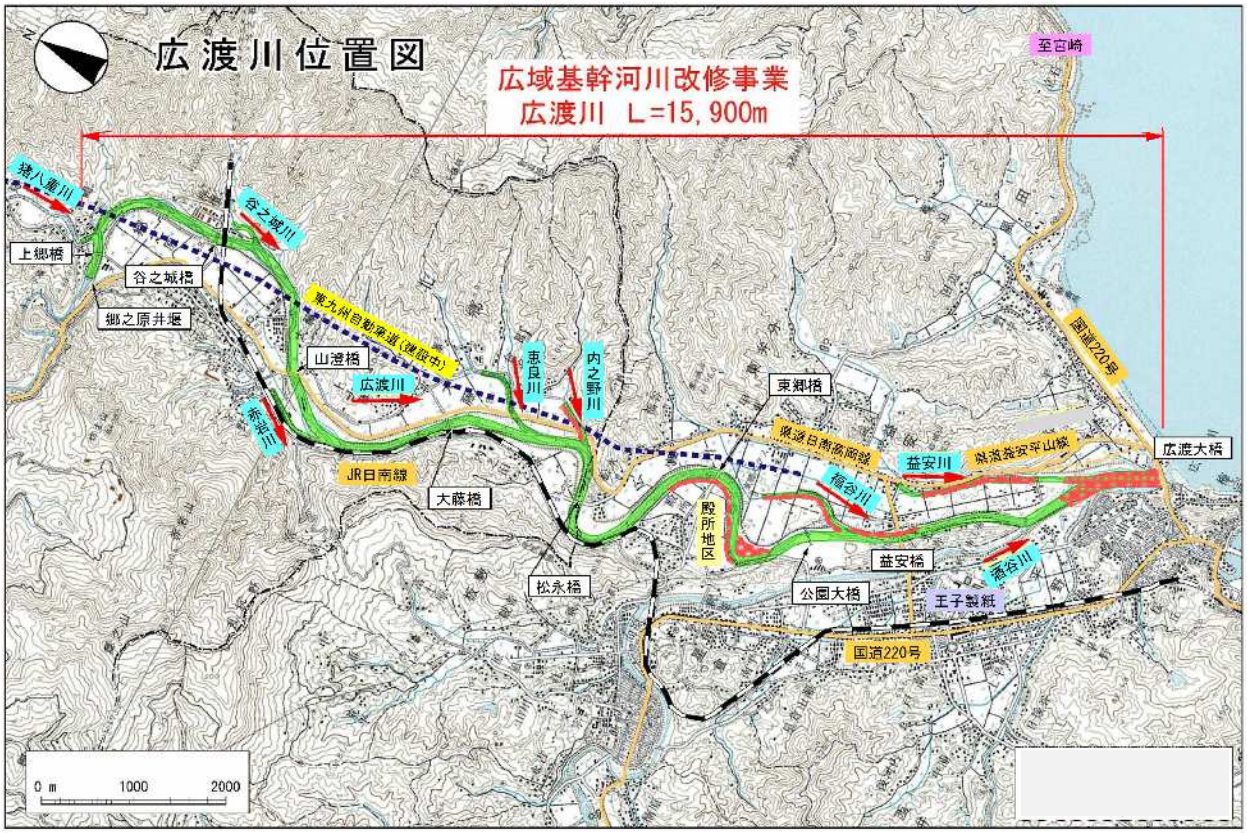
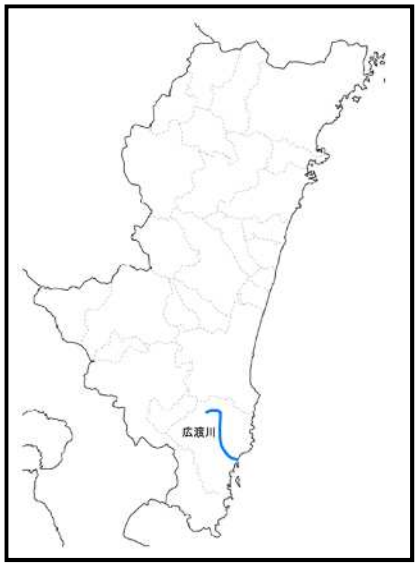
　広渡川の河川改修は、現河道及び堤防を利用することを基本とし、断面不足は河川敷の掘削により解消することとしている。
　代替案として遊水池案や放水路案等が考えられるが、土地利用形態や自然環境への影響を考慮すると、適さないと考えられる。
　また、現案は、現河道を利用することから、暫定掘削により河川断面を大きくすることで、早期の治水効果発現が可能である。

対応方針

継続

様式第3号

位置図（管内図）



凡　例	
	平成２８年度まで施工済
	平成２９年度以降施工予定